

## 奈良市環境基本計画市民ワークショップ第6回全体会議 会議録

<日 時> 平成23年12月16日（金）午後7時～

<場 所> 奈良市役所 北棟6階 第22会議室

### <プログラム>

1. 開会
2. 環境基本計画（改訂）素案について
3. その他
4. 閉会

### <会議資料>

- ・奈良市環境基本計画（改訂）素案
- ・第6回全体会議 ふりかえりシート

### <出席者>

#### 【市民ワークショップ委員】出席23名（欠席10名）

井上聡夫、井上雅由、岡本胤継、梶野博子、北浦由香、北端辰昭、栗岡理子、黒飛啓、小松弘子、島浩二、清水順子、瀬林傳、田川嘉隆、日月英昭、鶴保謙四郎、中川徹、橋本光男、船本知子、松本忠夫、南垣内貞史、三宅明代、矢藤加寿子、横山亜希子

#### 【事務局】12名

環境政策課 大西、桐山、新井、柴田、油谷、中西、坂崎、平野、村井、杉田、吉留、石橋

#### 【コンサル】1名

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 大川

### <傍聴者>

2名

## <会議の概要>

### 1. 開会

司会（井上雅由代表）より開会あいさつ、環境政策課 大西より環境基本計画（改訂）素案の内容について概略の説明。

### 2. 環境基本計画（改訂）素案についての意見等

#### 第1章 計画の基本事項

- ・ p. 5 の記述で平成 22 年度を目標年度としているとあるが、平成 23 年度が空白になるので、何らかの記述が必要ではないか。
- ・ p. 6 の地球環境をめぐる世界の動きの中には、最近行われた COP17 の内容を反映させ、COP16 の記述は削除した方が良い。  
→COP17 の内容については追加記載する。
- ・ ワシントン条約やラムサール条約、バーゼル条約などの記述は、詳細すぎるので用語集に入れた方がいいのではないか。
- ・ 奈良市としての原子力発電のあり方について意見を載せるべきではないのか。  
→市としては原子力発電について明確な意見はなく、原子力発電だけに依存するのではなく、再生可能エネルギー普及の方向性で進めている。
- ・ 原子力についての記述はこの程度で十分であると思う。
- ・ 東日本大震災については、より津波の被害、防災のあり方などの内容について記載していくべきではないのか。
- ・ p. 15 計画の位置づけにおいて、第4次奈良市総合計画についての説明文が必要。また、環境基本計画から関連諸計画に矢印がいつているが、計画に反映するのではなく、施策に反映するのではないか。

#### 第2章 奈良市の環境の現状と課題

- ・ アンケートの部分が多いので、ポイントだけを入れて詳細は資料編へ移し、見やすさなど分かりやすく修正した方が良い。  
→より分かりやすく要約された内容になるように検討していきたい。

#### 第4章 リーディングプロジェクト

- ・ p. 50 の市民ワークショップ提案分野別施策一覧表の図の網掛けの意味は、もう少しわかりやすいものにした方がいいのではないか。  
→数字に網掛けしているのが各分科会で出されたリーディングプロジェクト候補で、文章に網掛けしているのがリーディングプロジェクトに決定されたものである。
- ・ 今までの議論の内容、提案された施策を要約したものを巻末の資料に記載するべきではないか。会議録など情報公開すべき。  
→議論の内容について計画の中ですべて記述することは難しいが、ここで見られるということをお記しておけばいいのではないか。  
→情報の開示度は総合計画と合わせた方がいいのではないか。

→会議録については、市のホームページにすでに掲載しており、議論の過程などはそちらを参考にしてほしい。

- ・都市のあり方として、スマートコミュニティーの文言を追加してほしい。

→スマートコミュニティーについては市の現状ではまだ記載できない。各課との連携が必要で、今後推進会議でスマートコミュニティーをめざして一歩でも進んでいきたいと考えている。

- ・菜の花プロジェクトで廃食油回収をしている天理の NPO 法人自然（じねん）塾が今年度で回収をやめると聞いた。子どもたちにわかりやすく参加しやすいこのような取組は大切だと思う。行政にも循環型社会への道すじを持ってもらいたい。

→廃食油の回収は市で行っていないのが現状である。県の計画でも挙がっているし、3R 推進のために検討していかなければならないが、クリーンセンター建設の検討段階であり、具体的にはまだ決まっていない。

## 第5章 望ましい環境像を実現するための施策

- ・ p. 72 戦略的アセスメントについての施策が自然環境分野に入っているが、適切だろうか。  
→自然環境保全を考えた観点で必要なことだと考える。

- ・ p. 82 の 5-3-1 の環境美化の推進の内容が具体性に欠けているのではないだろうか。環境基本計画の内容を推進していく過程で、より具体的な記載が必要ではないのか。

→環境基本計画は計画であり、実施計画ではないので具体的なことを記載することは難しい。

- ・ 目標値があるが、この目標値の由来はどこなのか？

→各担当課に照会をかけて回答してもらった値で、他の計画との整合性によりこのような値となっている。

- ・ 目標値は、市が実際に取り組んでいく値という意味合いだけでなく、市民の理想も含めた値にすべきではないだろうか。

- ・ 交通について、記載されている施策や目標値はマイカーの利用を前提としたものだが、市民ワークショップで検討してきた交通の施策はマイカー削減が前提だったはず。なぜ施策や目標値に今まで議論してきた意見が反映されていないのか。

→市民がどのように考えているかは、提案されている施策を各担当課に見てもらって感じてもらっている。しかし、各課との調整などの段階でこのような施策や目標値になっている。今後、指標や目標値も含めて PDCA で見直しを行っていきたいと考えている。

## 第6章 計画の推進

- ・ P. 92 の計画の推進体制の図を見る限り、奈良市環境基本計画推進会議（仮称）には事務局（環境政策課）が含まれていないのか？

→事務局（環境政策課）も環境基本計画推進会議には事務局として加わっている。わかりやすい図の検討をしていきたい。

## 資料編

- ・市民ワークショップの委員の名簿は載せる必要があるのか。  
→環境基本計画に関わった責任、誰がどこに関わったかの証明などを考慮すると、委員の名簿は掲載するべきだと考える（名簿は掲載の方向で決定した。）
- ・文書作成に関与したコンサルティングの名前も掲載するべきではないか  
→コンサルティングは文書作成の補助的な側面があるだけで、特に名前を掲載する必要はないと考えている。
- ・p. 98 の観光客の推移の図は、過去 10 年間のデータになっているが、より広いデータで、値を各年ではなく 3 年に一度などにして今までの動向がわかるような値にしてはどうだろうか。
- ・用語解説は必要だろうか。  
→中学生以上なら読んでもらいたいし、読みやすさを優先すると、用語集は必要だと思う。
- ・p. 91 の PDCA {plan (計画) , do (実施) , check (点検) , action (見直し) } の check は誰が行っていくのか

## 3. その他

- ・今後のスケジュールは、12 月 22 日に環境審議会に環境基本計画の素案を提出し、12 月下旬から約一ヶ月間パブリックコメントを募集し、2 月上旬に再度環境審議会に提出するという流れになる。
- ・環境基本計画はまだ素案であるため、さまざまな意見をふりかえりシート、FAX、メールなどで 12 月 22 日（木）までに提出してもらいたい。